

## 賢いエアコン活用術

環境にも家計にもやさしい

北原博幸著

ISBN4-7655-4437-0  
B6判・164頁 本体1800円＋税

電力会社や役所が、冷房温度を上げて電気を節約しよう、と呼びかけるし、どうせならと、冷房運転を止め、除湿運転だけで我慢していたら、不思議なことに逆に電気代が高くなってしまった、というような経験はないだろうか。本書は、そんな不思議の原因を明らかにしながら、エアコンを使ううえで知っておきたい知識を一般向きに提供する書。エアコンのしくみ、湿度やカビの問題などについてわかりやすく解説し、電気の使用量を抑えながら快適に過ごす秘訣を紹介している。シックハウス対策にもふれる。

## 生活家電入門

発展の歴史としくみ

大西正幸著

ISBN978-4-7655-4465-8  
B6判・260頁 本体2200円＋税

わたしたちの周りには、冷蔵庫、洗濯機、掃除機をはじめ、数多くの電気製品がある。これらは「生活家電」と呼ばれ、毎日の生活に欠かせない商品である。生活家電はどのように発展してきたのだろうか？ 基本的なしくみはどうなっているのか？ 長年、生活家電の開発に携わってきた著者が、その経験をもとに、商品開発の歴史、基礎技術、さらに省エネや安全対策技術を丁寧に解説した。

## 住まいと人と環境

プロフェッショナルからの提言

住まいと環境東北フォーラム編

ISBN978-4-7655-2576-3  
A5判・188頁 本体2300円＋税

安らぎのある住まいについて居住者と建設関係者が一緒になって考えていくという目的で、1992年6月に発足した「住まいと環境東北フォーラム」。本書はその会報にて掲載された記事をまとめたもので、ヒートショック、シックハウスなどの対策、自然エネルギーを活用した省エネ住宅、光や熱の快適性など、健康で快適な住まいづくりのヒントとなる最新の情報を提供している。

## 実務者のための自然換気設計ハンドブック

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2566-4  
B5判・192頁 本体3500円＋税

自然換気とは、建物における換気駆動力として機械力を用いず、専ら自然の力に頼る方法をいう。古来、日本では、建物に通風を有効利用してきた。近年、閉じた高气密の建物の問題が指摘されるようになり、省エネルギーへの要請の高まりもあり、自然換気を導入した建物がつくられるようになった。しかし、自然換気的设计基準はいまだ確立されておらず、経験や事例により設計が行われている。本書は自然換気設計法構築に向けた一冊である。

## 昼光照明デザインガイド

自然光を楽しむ建築のために

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2505-3  
B5判・170頁 本体2800円＋税

「建築の歴史は窓の歴史」と言われるほど、窓は建築物のもっとも重要な要素であり、「採光」は窓の持つ重要な機能の一つである。一方、電灯照明の歴史はエジソンの時代から約120年に過ぎない。歴史的長さから考えて、ヒトがより親しんでいるのは昼光照明であると言える。本書は、昼光照明による理想的な環境をめざすためのガイドブック。昼光照明に関わる最新の技術や状況に合わせた設計資料を整備するとともに、将来に備えその可能性を広げるために、根本的な意義と基本的な理論についてまとめている。第1～4章でおよその昼光照明設計に対応、第5章～第7章が基礎編（理論編）となる。

## 環境に配慮したい気持ちと行動

エゴから本当のエコへ

和田安彦・三浦浩之共著

ISBN978-4-7655-3419-2  
A5判・188頁 本体1900円＋税



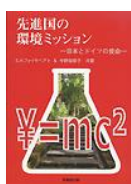
「リサイクル」、「省資源・省エネ」に取り組むのは至極当り前の時代になっている。だが自己満足に陥っていることはないだろうか。快適に暮らしたいという欲求(エゴ)と、環境との共生(エコ)を両立するために何が必要かを客観的に考える必要がある。本書では、私たちの生活に密着し、かつ「エゴ」な生き方、考え方の結果が如実に表れている「ごみ」をめぐる環境問題に焦点を当て、そこに生じている「エゴ」と「エコ」の関わりについて述べ、積極的に楽しく行動を起こしてもらうためのアプローチを考える。

## 先進国の環境ミッション

日本とドイツの使命

K. H. フォイヤヘアト・中野加都子共著

ISBN978-4-7655-3430-7  
A5判・240頁 本体3000円＋税



国際経済の発展とともに、環境問題は生産国・消費国ともに対策すべき問題となり、環境問題が国際政治の舞台でとりあげられるようになった。それぞれの国や地域は慣れ親しんだ自然と民俗・文化を持ち、環境への対処方法も大いに異なる。本書は、負荷削減の背景にある現代社会生活(地形・文化・経済等)をつぶさに分析し、ローカルスタンダードな持続可能性のある対策を実行し、グローバルな指標への展開が図れるよう方策を考える。

## この国にとっての脱原発とは？

日本そしてドイツ

K. H. フォイヤヘアト・中野加都子共著

ISBN978-4-7655-3456-7  
B6判・218頁 本体2200円＋税



共同体を背景に持つドイツ。持たない日本。ヨーロッパでは、EUという超国家的枠組みの中で、それぞれの国が独自の方法でエネルギー政策を選択しながら、全体としては相互融通による補完が可能な仕組みになっています。つまり、国、EUという二重のシステムにおいて、それぞれのレベルで地域特性を生かすことによって合理的整合性を図る仕組みになっているのです。そのデメリットとして顕在化しているのが、ユーロ危機でもありと考えられます。こうしたEUという共同体の中核国であるドイツで可能なことを、共同体組織を持たない日本でもできると考えることは、別の意味で大きなリスクを伴うということを考えておかなければなりません。筆者らは12年間にわたり「日本とドイツの比較プロジェクト」に取り組んできました。本書はそうした経験により、幅広い視野で今後の方向性を考えるきっかけを提供しています。

## 企業戦略と環境コミュニケーション

ドイツ企業の成功と失敗

K. H. フォイヤヘアト・中野加都子共著

ISBN4-7655-3415-4  
A5判・230頁 本体2800円＋税



1990年代を境に企業の活動は質的变化をしいられ、経済成長を目指すことから「環境と社会に配慮した企業活動」へと方向転換してきた。企業が社会的責任を果たすことは、とりもなおさず企業の権利も拡大することにつながる。ドイツ産業界ではEU創立を契機に、自国のみならず広域な加盟国を念頭に方向転換がなされてきた。その過程における多くの成功例や失敗例を具体的に示しながら、日本における社会・環境配慮型企業へと変身するための基本的考え方を説き、「持続可能な社会」実現の方向付けを示す。

## 中小企業のための環境関連法規制

太田芳雄著

ISBN978-4-7655-3467-3  
A5判・240頁 本体2700円＋税



環境基本法をはじめ、大気・悪臭関係法規制(6法律)/水質関係法規制(4法律)/土壌関係法規制(1法律)/騒音・振動・地盤沈下関係法規制(4法律)/有害物質関係法規制(4法律)/エネルギー関係法規制(3法律)/防災・作業環境・組織体制整備関係法規制(4法律)/廃棄物関係法規制(5法律)/リサイクル関係法規制(7法律)/土地利用・自然保護関係法規制(4法律)/環境教育関係法規制(2法律)/海外規制(2規制)について、解説を目的、適用と内容、留意点、その他(責務)、参考で構成して平易にまとめている。以上の47法律・海外規制の他に、71の法律・海外規制について、法律の目的を示す第一条を簡易にまとめた。また、付録として127の環境関連用語の解説も付け加えている。